



させぼ夢大学

発行●させぼ夢大学
広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.171 <2009・3>

平成20年度
第10回

2009 **3月5日(木)**
アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●夢のひろば 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

今回お迎えする講師は、日本の江戸文化研究者の第一人者として知られる田中優子さんです。

研究範囲は江戸時代の美術、生活文化、海外貿易、経済、音曲、「連」の働きなど多彩です。さらに、中国文化を中心に東アジアと江戸の交流・比較研究、布や生活文化を中心にインド・東南アジアと江戸の交流・比較研究など広範囲にわたっておられます。

江戸時代の生活の基本である紙や布は当時貴重なものだったので、使い捨てられることはなく、幾度も再生使用され、最後にぼろぼろになっ



たなか ゆうこ
講師●田中 優子氏
テーマ●江戸の生活と文化

て焼かれても、その灰が畑の肥料になって自然界に戻って行きました。

田中さんは、「もの」を作る時や使う時の自然との関係に心ひかれ、当時の人々の、「もの」への姿勢が、自然を扱う人間の歴史であるとも説かれます。

そして、江戸時代の価値観から見た現代社会の問題に言及されたりもなされます。

着物姿がとっても素敵な田中さん。きっぷのよい語り口で、わかりやすく粋に江戸文化をお話なさることでしょう。お会いできるのが楽しみです。

江戸時代の豊かさとは



次回のご案内

- と き / 4月16日(木) 開講式
拓殖大学海外事情研究所所長兼同大学院教授
- 講 師 / 森本 敏氏
もりもと さとし
- テーマ / 緊迫する国際情勢と日本の対応

●昭和16年東京都生まれ。防衛大学校卒業後、防衛庁入省。昭和52年外務省アメリカ局安全保障課に転出。54年外務省入省。在米日本国大使館一等書記官、情報調査局安全保障政策室長など一貫して安全保障の実務を担当。平成12年より拓殖大学国際学部教授、平成17年より現職。安全保障・防衛・国際政治・外交問題のスペシャリストとして、原稿執筆やテレビ等への出演、講演、内外の諸会議への出席など多方面に活躍中。

田中 優子氏のプロフィール

●神奈川県横浜市生まれ。法政大学文学部卒業、同大学大学院人文科学研究科博士課程修了。法政大学第一教養部専任講師、同助教授、教授を経て、現在は社会学部教授。近世文化の研究にとどまらず、近年は江戸時代の社会・文化など幅広い分野での研究を行っている。きっぷのよい語り口で、わかりやすく粋に江戸文化を語り、近年はTBS「サンデーモーニング」のコメンテーターとしても活動している。処女作「江戸の想像力」で芸術選奨新人賞、「江戸百夢」で芸術選奨大臣賞を受賞。その他の主な著書に「近世アジア漂流」「江戸の恋」「江戸を歩く」「カムイ伝講義」など多数。2005年、紫綬褒章を受賞した。





講演を聴かれた感想をお待ちしています！



■正月にふさわしいお方呼んで下さり「笑う門には福来たる」感謝、感謝で一す。家に着いてまで思い出し笑いをしていました。

折橋町●田口 清紀

■泣き笑い、感涙に咽ぶの形がびったり。周囲の人に慮ることなく、次々と鼻から出てくる涙を吸いながらの独演会に、立ち見が出た会場は爆笑の渦。三枝さん、お蔭様で長生きできそうです。

光月町●国松 仁志

■初春の きらめく芸にはじけとび 夢の笑いに福まねきよぶ

比良町●岡井 眞紀

■「おひまな方が多いですね」で会場いっぱいの爆笑、「NK細胞で3年長生き」と秋にみえた海原先生も話されたNK細胞の話思い出す。笑いが少なくなった今、おおいに笑わせて、後半は自身の生い立ちは大変ご苦労なされた様子をお聴きしてもその苦しみも笑いに変えて、又「3年長生き」と満場笑いの講演で、楽しい時間でした。もう少し聴きたかった。

上原町●神原きぬよ

■笑いで始まり、笑いで終わった。三枝さんの講演、思い切り笑えた。苦勞の子供期、大学卒業間際の決断が今の三枝さんを築いた。笑いは「病」をはねのける力を持っている。沢山の方との出会いを大切にされている言葉に新たな息吹をいただきました。私事ですが、「夢のひろば」で箏の演奏会に参加出来、本年の良きスタートになりました。

船越町●田代 昌代

■久しぶりに涙ふきながら笑いました。笑うって身体と心にいいですね。三枝さんありがとうございます。余談ですが私、「新婚さんいらっしゃいクッション」が当たった事があるんですよ。

木風町●西 照美

■桂 三枝さんのなんとも言えない人間性のユーモアある話の中に、正月から笑い転げることができました。さすがに落語家として内弟子から修業された噺家三枝さんでした。

桜木町●原 敏朗

■三枝さん！テレビ、ラジオより若々しく、大いに笑わせて頂き、5歳若くなり、10年長生き出来そうです。苦勞してきた人は、苦勞を感じさせないものですね。

桜木町●原 尚子

■咄家 三枝さんのお笑いで講演は終わった。時間を忘れ楽しいひと時だった。はたして寿命は何年延びたかな。すばらしい容姿は一流のあかし、その真髓を視た。「いつも夢と希望を持つこと」この言葉を大切にしたい。

天神2丁目●青木 哲夫

■三枝さん、ようこそ！初笑いで今年もいい年が過ごせます。楽しい講演でした。

江迎町●山口美津枝

■新春にふさわしい邦楽演奏。とても心がやすらぎ、スティック演奏する箏の音色は「目からうろこ」でした。桂三枝さんのスマートな和服姿、話術にも引き込まれ、何度大笑いした事か。寿命が10年くらい延びました。「念ずれば花開く」を胸に刻み込みました。

八の久保町●小川 恵美子

■出囃子ならぬ軽快なジャズのリズムにのっての御登壇！噺家としての本領を發揮された70分は短かすぎた。笑いの渦に巻き込みながら「言葉には魂が宿っている」ともおっしゃった。その魂の迸りで、NK細胞を大いに活性化して頂き、何よりのお年玉となった。

石坂町●太郎浦 幸子

■待ってました「三枝さん」。新春にふさわしいお笑いや活力をたくさん頂きました。殺伐とした今日この頃、厳しい世の中を試練として頑張っていきたいと思えます。足取り軽く家路につきました。今日はどうも有り難うございました。

上町●松尾 雅子

■三枝さんは、文化庁芸術祭で大賞を受賞の「ゴルフ夜明け前」に代表される創作落語にこそ、その類い希なる才能と持ち味が最大限に發揮されていると思う。本日の講演もその芸風を十分に楽しむ事が出来た。

花高●土井 芳生

■この人の言うことは何でも面白い。でもそこに流れる深い真実が感じられ、NK細胞が生き生きと活性化しました。ありがとうございます。

波佐見町●中山 公弘

■新年が満席でスタートした。世の中は金融不安に始まり、雇用問題、教育問題、そして身近な家庭問題等、事件が多い話題ばかりである。今日は桂三枝さんの軽妙な笑いの話しぶりに、暗い世の中を忘れさせてもらったひと時であった。今年はこの笑いをプラス思考とし、ホップ・ステップ・ジャンプで、進んでいきたい。感謝：ありがとう、三枝さん。

もみじが丘町●内野 一馬

※締め切りは講演日の一週間後(必着)

夢のひろば

◆日時/3月5日(木) 午後6時00分~20分

◆演目/合唱

◆出演/伸声会合唱団 団員 55名
指揮/蛭子谷伸二 伴奏/久野直子

◆出演者紹介

平成9年に結成。幼稚園児から80歳代まで一緒に活動している。毎年11月に定期演奏会を行っている他、施設での演奏会を行うことにより地域との交流を図っている。又、平成12年に混声合唱組曲「心の抄」を、平成17年に女声合唱組曲「愛のララバイ」を初演し、常に佐世保からの新しい音楽の発信に努めている。練習は、大人は水・金曜日の午前、児童・園児は土曜日の午後、大野地区公民館で行っている。

◆曲目

- ①とびたいペンギン 詞：新谷智恵子 曲：三平 典子
- ②花のまわりで 詞：江間 章子 曲：大津 三郎
- ③子鹿のパンピ 詞：坂口 淳 曲：平岡 照章
- ④森の水車 詞：清水みのる 曲：米山 正夫
- ⑤九十九詩人 詞：阿久 悠 曲：羽田健太郎

初笑い、笑う門には福来たる! ありがとう、三枝さん。

「笑いで幸せに」

南風崎町 横山 春美

「夢のひろば」は邦楽演奏。演奏では滅多に聴けない三味線、琴、尺八の音色が、鮮やかな緋毛氈や背景の松とも調和して、正月らしい厳かな雰囲気味わうことができた。

さて、三枝師匠が和服姿でうやうやしく登場。テレビで見るとよりうんと落ち着いた雰囲気だが、だんだんボルテージが上がっていく。客席とのコミュニケーションをとりながら、絶妙な「間」を入れて自分のほうに引き込んで行く話術は流石だ。まずは「新婚さんいらっしゃい」の話。もう39年も続いている長寿番組とのこと。夫婦の有様を面白おかしく落語仕立てて話し、客席を笑わせてくれた。笑いは「NK細胞」を増やし、健康の元だと大いに奨励。

自分の境遇にも触れ、生後11ヶ月で父親が戦死。小学生時代は母が住み込みで働いていた関係で叔父さんに預けられ、母とは別居生活で苦労されている。性格は即断即決で、落語界にも母の反対を押し切って入ったとのこと。森光子さんの、相手を選ばぬ「念ずれば花開く」のサインのエピソードに感心した話は良かった。またエノケンやアチャコ、寛美など多くの先輩などにお世話になって今の自分があると感謝されている。

最後に、落語は面白いだけではだめで、良い人間でなければいけない、と力説。大変な苦勞経験や強い精神力、謙虚な姿勢があつて現在の地位があるのだからと思う。これからも大いに笑わせて、人々を幸せに。1時間はあつという間に過ぎたが、大変愉快で楽しいひと時だった。私も笑いのある

楽しい人生でありたい。皆さん大いに笑いましょう!

笑いの効用

盛坂町 本山 正吉

夢大学に来られるのを、ずっと楽しみにしておりました。「新婚さんいらっしゃい」他の番組でおなじみの名司会者、桂三枝さんの冒頭のこの一言は、聴衆の心をつかみ親近感を覚えさせた。今年で39年目を迎えるという番組。同じ番組で5年、10年続くのは奇跡といわれる。如何にこの番組が多くの人々に親しまれ、期待されているかが分かる。

パール婚で、手をつないで登場してくる夫婦は、10組のうち1組もないらしい。「耐えて来たそんな言葉に耐えて来た(川柳)。時の流れ、時代の変化と共に、人



菊の会、茜山会の邦楽演奏(箏、三絃、十七絃、尺八)

の心も変わり、初心を貫徹するのが如何に難しいかが分かる。生後11ヶ月で父親は戦死。母子一人の母子家庭に育った。

世は正に経済大不況の時代。「笑いは百薬の長」「笑う門には福来たる」「笑顔に勝る化粧なし」。笑いはいれしよの笑い、親しさの笑い、おかしよの笑いの三つに分かれるという。笑いは情緒的なことをつかさどる右脳に入って、脳を活性化させる働きがある。ガン

になりやすい。長命にも繋がる。こんなときこそ、心底から笑い、ストレスを貯めないことが必要ではなからうか。笑いは自己の心を癒し、他人をも楽しませる。女優の森光子さんが、新幹線の中である新婚夫婦から、新聞の広告紙にサインを求められ「念ずれば花開く」と書かれたことと、その後エピソードに深く心を打たれた。流石は創作落語のバイオニア。会場は終始笑いに包まれた。

元気の源は笑いだ

松川町 杉山 源次郎

新春初めの夢大学。この冬最高の寒さにもめげず、受講生の出席はことのほか早く、開場時刻の2時間前には、4、50人の列ができていて驚くばかり。なんと行って、今日の講師「桂三枝」さん

がお目当てで、生の三枝さんを見易い席をとの願望であろうとつくづく思った。

「夢のひろば」は舞台一杯に配置された楽器、鮮やかな和服の女性、紋付姿の方々の新年に相応しい邦楽演奏に聴き入った。菊の会・茜山会のみなさんの、ご健闘



とご発展を、お祈り致したい。

さて、いよいよ「三枝さんいらっしゃい」!三枝さんは、着物姿での登場。場内は割れんばかりの歓迎の拍手でしばしさわめいた。さすが落語界の王者そのものであった。39年の永きにわたるテレビ番組「新婚さんいらっしゃい」の名司会は、日本中を笑いの渦に巻き込んでいる。その新婚さんの様子、会話などをまじえ、巧みな落語調での語り、顔で、両手で、体全体で表現しながらの熱演、何と素晴らしいことだろう。場内は、腹の底から、心からの笑いで絶え間がない有様だ。

三枝さんの誕生から逆境の中の日々を語る様、素質はあつたにしろ、好きな道に向かつて、努力精進もさることながら、出会い、運命、気力、心構えがあつたことだろう。

落語界、喜劇界の有名な「柳家金語楼」「エノケン」「藤山寛美」の名も飛び出した。

三枝さんは「健康が第一、ストレスをもたない、気持の切り替え、特に、元気の源は笑いだ」と強調された。長い人生、元気で且つ笑って過ごそう。



10

海洋時代小説家

白石 一郎

小西 宗十

の常連となるが落選が続き、ようやく8回目、『海狼伝』（一九八七）で受賞した。

他作品に『海王伝』『戦鬼たちの海―織田水軍の将・九鬼嘉隆』（柴田錬三郎賞）『怒涛のごとく』（吉川英治文学賞）『航海者―三浦按針の生涯』『南海放浪記』『びいどろの城』『鳴門血風記』『十時半睡事件帖』『水軍の城』など。

一九六九（昭和44）年、佐世保文化協会が設立され、翌年の4月機関誌「火の国」が創刊された。白石一郎はその創刊号に祝辞を寄稿している。

一九六九年といえは白石一郎がまだ直木賞の候補にもなっていないときだ。当時の佐世保文化協会「火の国」編集部が目配りの細やかさ、見識の高さ、そして白石一郎への期待の強さを感じざるを得ない。白石は佐世保を追憶して言う。

「サセボ」という声を耳にすれば、今でも何やらジーンと胸にひびくものがあるのは、私の青春の思い出が、私の心の中で、佐世保というあの小さな中にすべて凝縮しているからでしょう。

いい町でした。ことに若い者にとつては。

古い城下町の胸のつまるよ

うな息苦しきは、あの町にはなかった。いささか雑然とし、あまり美しいとはいえず、人情こまやかというのでもないが、古めかしい城下町には見られない新鮮な息吹が、あの町にはありました。

お前のふるさとはどこかと、人に聞かれれば、私は躊躇なく「サセボ」と答えるでしょう。

後年、白石一郎は、北高同窓の歴史家瀬野精一郎氏（早稲田大学名誉教授）と対談して、「佐世保というのとはとにかく風通しがよかった。外来者をこれぐらい気持ちよく迎える町は、僕はないと思つたね」と語っている。（文化誌「西海人」（一九九三年 させぼ塾））

白石 一郎氏



●ご執筆に感謝！

五足の靴のリーダー「与謝野鉄幹」でスタートした「ふるさと文学紀行」は、今号の「白石一郎」で完結となります。佐世保とゆかりの深い文学者たちの佐世保との関わり、生き様、文筆活動などの様々なエピソードを交えて広く取り上げていただきました。毎回多くの方が楽しみになさっていたに違いありません。ご執筆くださいましたエッセイストの小西宗十さん、本当にありがとうございます。

●来年度18期の「ふるさと紀行」は北松浦郡（佐世保市小佐々町、世知原町を含めて）関係の名所や祭り等について、郷土史等に詳しい数名の方が手分けしてご執筆くださいます。どうぞ、ご期待ください。

●18期の会員申し込み、あつと言う間に定数に達しました。受講料も順調に振り込まれています。そろそろキャンセル待ちの方にお断りのハガキを準備しなければなりませんので、重たい気分になります。事務局では只今、受講料を振り込まれた方のデータをパソコンに処理している最中です。3月20日までに金



色の学生証が届けられそうです。しばらくお待ちください。

●平成20年度も、させぼ夢大会報「夢のつづき」をお読み頂きありがとうございます。事務局だよりでは、大事なお知らせを口を酸っぱくして、皆様のお耳にたこが：（？）と心配しながらお伝えしているのですが、どうもここまでたどり着いておられない方も多いようです。繰り返し同じ事でも書き続けます。18期も「夢のつづき」、事務局だよりまでよろしくお願います。

講演を聴かれた感想をお待ちしています!!

400字詰原稿用紙1~2枚程度にまとめてお書き下さい。短文でも結構です。掲載分にはささやかですが記念品をお送りします。締め切りは講演日の1週間後（必着）いたします。感動がさめないうちになるべく早く書いてお出し下さい。

あて先は、〒857-0863 佐世保市三浦町4-30 松蔵ビル3F
させぼ夢大学 事務局

E-mailでも受け付けます!
sasebo_yumedai@yahoo.co.jp